



市長からの手紙

47 豊島区役所新庁舎

先日、豊島区役所の新庁舎落成式に招かれ、建物を視察してきました。新庁舎は、閉校となった小学校の土地を中心に建てられ、地下3階、地上49階建てとなっています。1階の一部と3階から9階までが新庁舎、10階の免震装置を挟み、11階から49階までは分譲マンションとなっている建物です。

新庁舎についていくつかのことに驚きました。まず、窓口サービスが年345日間行われることです。業務は5月の連休明けから始まるようですが、その時点から、この体制で業務を行うと聞きました。豊島区長の話では、職員組合とかなりの時間をかけて話し合い、実現することができたようです。住民サービスの飛躍的充実はもちろんですが、実は1階2階にある商業部分のにぎわい創出をサポートするという狙いもあるとのことでした。

次に、議会が開かれていないときは、区議会の議場を国際会議などの会議場として一般に貸し出すということです。地方議会は年4回、会期を約1か月弱として開会されるのが一般的です。それ以外の期間は、広いスペースを占める議場は活用されない場所となっているのが普通です。これを一般に貸し出し使用料収入を上げるという狙いは、庁舎の利活用における実に画期的な発想です。もちろん、議会の賛同を得て実現しました。

また、新庁舎建築にかかる費用は、マンション事業者との敷地の等価交換、現区役所の敷地を第三者に定期借地権で貸し出す権利金と地代で全て賄うことができ、新たな支出は全くないということです。なお、豊島区の現庁舎は昭和36年に建築され、今日まで50年以上使用されています。

ほかにも、例えば廊下部分に豊島区ゆかりの画家の絵(レプリカ)を飾り区民美術館として使うなど、新しい工夫が随所に見られることにも感心しました。

川越市にそのまま取り入れることができるかどうかは別として、大いに参考になる豊島区役所新庁舎です。

川越市長 川合善明

環境にやさしい行動を目指して 1

緑のカーテン始めませんか

環境政策課 ☎224・5866



最近、まちなかでよく見かける「緑のカーテン」。一般的なゴーヤ以外でも、アサガオやパッションフルーツなどの植物で挑戦したり、ペランダからつり下げたりとさまざまな工夫も見られます。室内の温度上昇を抑えるほか、花や実の収穫といった楽しみもあるのが緑のカーテンの醍醐味です。

昨年度「緑のカーテンコンテスト」で市長賞を受賞した中込忠正さん(伊勢原町二丁目)は、「緑のカーテンは、土づくりが最も重要なことの一つなので、しっかりとやるのが大切です。使用する植物は、ゴーヤやメロンなどいろいろ試しましたが、作りやすく繁茂したのはモミジバアサガオでした。初めての方にはお勧めですよ」と話してくれました。

また、「緑のカーテンは、『省エネ』『涼感』『目の癒し効果』『話のタネ』になります。夏の午前は涼しい風を部屋に送り、日中は太陽を遮断し、日陰をつくります。それに加え、見る人には涼しさとともに目に優しい緑を提供し、近所の方との話のタネにもなります」とその魅力を語ってくれました。

緑のカーテンはこれからの時期がちょうど始めどき。皆さんも植物の力で夏を涼しく過ごしてみたいかがででしょうか。